

当たり前とは

高知県立安芸中学校3年 谷渕 晴音

今年度、僕が通う学校は新しい校舎に移転した。以前の校舎には三年間通い、思い出や愛着があり、引っ越す前は少し寂しい気持ちがあった。しかし、引っ越してみると、真新しい校舎は新鮮で、気持ち新たに学校生活を送ろうと自然に思えた。

この新校舎の建築工事を、僕は通学の汽車の窓から時々見ていた。大きな重機が動いていたり、資材がたくさん積まれていたり、多くの人が働いていた。校舎の形が少しずつ出来上がってきた頃、ふと費用について考えたことがあった。「費用は莫大だろうな、その費用には税金が使われているんだな。」と思った。

帰宅してから税のことを調べてみた。税には所得税や法人税、消費税などの国税と、住民税や固定資産税などの地方税があり、日本には約五十種類もの税があることに驚いた。そして、この税金は、学校の建築以外にどんなことに使われているのか、身の回りの例を調べた。

朝起きて顔を洗うために使う上下水道は税金で整備されている。通学の際に通る道の道路や信号なども税金でつくられている。学校の校舎や机、椅子、教科書やパソコンにも税金が使われている。僕が食べる食品を生産する農業や漁業の支援にも税金は使われている。

今年の正月、家族の体調が急に悪くなり、夜中に救急車で病院に搬送され、一週間後元気に帰ってくることができた。病院で診てもらうのが、あと少し遅かったら大変だったと聞き、間に合って良かったと強く思った。急病やケガのときに利用する救急車にも税金が使われているのだ。

医療や年金、介護や福祉などの社会保障にも税金が使われ、安心できる暮らしに役立っている。

当たり前だと思っていた生活は、全て税金によって支えられていた。

国や地方公共団体は、僕たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない仕組みをつくり、サービスを行っている。これらには、多くの費用が必要であり、皆で出し合っているのが「税金」なのだ。僕たちの当たり前の生活に税は必要不可欠である。

しかし、少子高齢化が進む日本では、社会保障の費用が増大し、その費用を負担する働き手が減り、税金で賄いきれない現状がある。この課題は深刻さを増している。前述した当たり前の生活が当たり前でなくなる世の中を想像すると、とても不安になる。

そうならないために、僕が今できることは、税金で勉強できている学校生活を精一杯頑張ることだ。税金について学び、正しい知識を持ち、適切な納税をすることが大切である。そして、現状の課題についても正しく知り、深く考えていきたい。この社会を担っていく僕たちが、皆が安心して暮らせる当たり前を支えられるようにならなければならない。